

令和4年度企画展「家形埴輪」の開催について

西口正純

1 企画展の開催計画

さきたま史跡の博物館では、毎年埼玉古墳群や古墳時代に関連する企画展を開催している。今回の企画展では、稲荷山古墳から出土した家形埴輪が、関東地方で初期の入母屋造家形埴輪として注目されていることから、家形埴輪にスポットを当てた展示を企画することとなった。

2 展示構成

展示の構成は、プロローグ、Ⅰ家形埴輪の種類、Ⅱ豪族の館、Ⅲ古墳時代の集落、エピローグとした。古墳に設置される家形埴輪の意味と種類から豪族の暮らしを考える流れでの展開とした。

プロローグ

導入部分では、古墳時代の建物を知る例として奈良県佐味田宝塚古墳出土『家屋文鏡』、家形埴輪の初現については、御所市宮山古墳出土家形埴輪と関東地方では、伊勢崎市赤堀茶臼山古墳、藤岡市白石稲荷山古墳出土の例を写真パネルで紹介した。

Ⅰ 家形埴輪の種類

家形埴輪は、個別に建物の種類や性格を特定する要素に乏しく、住居、倉庫、神殿など形態による分類が大変難しい。そのため、屋根の造りにより切妻造、入母屋造、寄棟造と大きく3分類による展示を行った。

各埴輪については、建物の部位について解説を行い時期的な形態の変化や技法の特徴についてパネルで解説を行った。

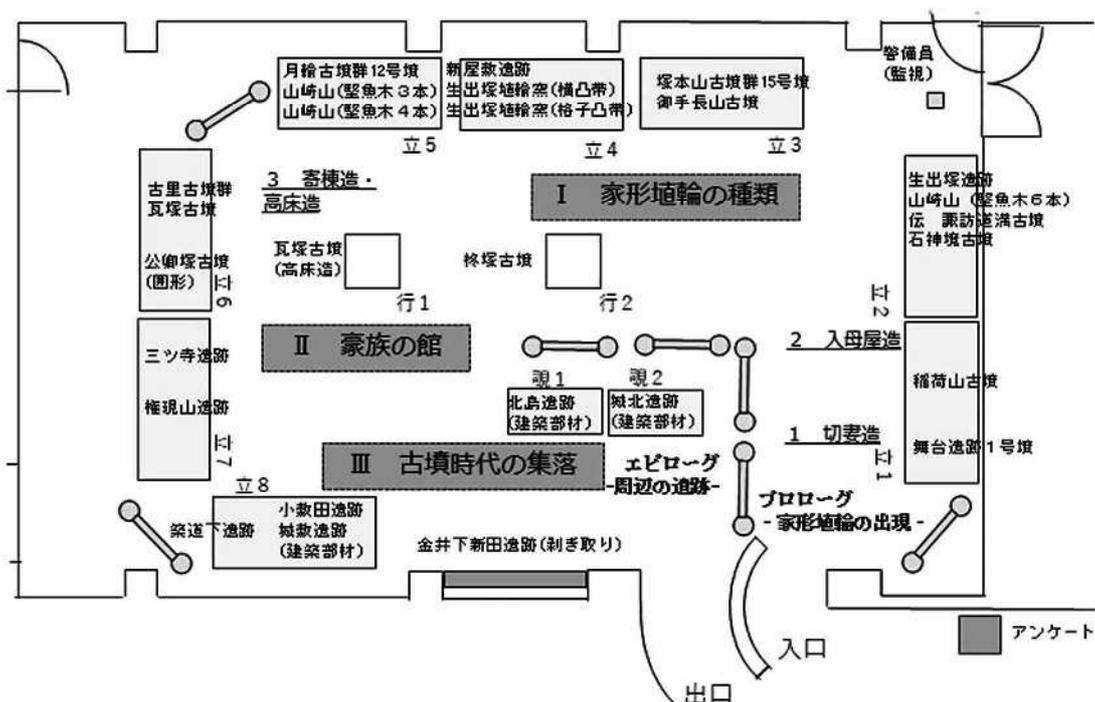


図 企画展示室レイアウト

1 切妻造

前橋市舞台1号墳出土家形埴輪（重要文化財）を、報告書記載に従い切妻造として紹介した。研究によっては身舎上部につば状に巡る部分を屋根として、入母屋造とする考えがあることについては解説パネルで紹介した。

後期以降の家形埴輪は、切妻造が減少するとの指摘のとおり、関東地方では、類例が乏しくなる傾向がある。

<展示資料>

- ・前橋市舞台遺跡1号墳出土家形埴輪（重要文化財）



写真1 切妻造と入母屋造

2 入母屋造

関東地方の古墳時代後期は、切妻造の家形埴輪が減少するとの指摘がある。その中で、入母屋造家形埴輪は増加する傾向がある。また、器形は大型化し分割成形焼成技法が登場する。その例として鴻巣市生出塚遺跡の家形埴輪や美里町塚本山古墳と本庄市御手長山古墳出土家形埴輪を展示した。美里町塚本山古墳と本庄市御手長山古墳の例は、大棟上に煙突様の円柱が付くもので、鍛冶工房などが想定されている。豪族の居館コーナーの鍛冶工房とともに紹介した。

<展示資料>

- ・行田市稲荷山古墳出土家形埴輪
- ・本庄市石神境古墳出土家形埴輪
- ・深谷市山崎山出土家形埴輪
- ・鴻巣市生出塚遺跡出土家形埴輪
- ・本庄市諏訪道満古墳出土家形埴輪
- ・本庄市御手長山古墳出土家形埴輪
- ・美里町塚本山古墳群15号墳出土家形埴輪



写真2 入母屋造と寄棟造

3 寄棟造と圀形埴輪

8点の家形埴輪と圀形埴輪を展示した。鴻巣市新屋敷遺跡第60号古墳出土の家形埴輪は、全長42.5mの帆立貝形前方後円墳のくびれ部付近から出土である。5世紀後半の築造で、埼玉古墳群稲荷山古墳とほぼ同時期の築造と考えられる。埴輪は、細い刷毛目で壁材を表現する様に丁寧に施される。5世紀後半の長胴化する以前の家形埴輪として、6世紀前半の鴻巣市生出塚埴輪窯跡出土埴輪と比較できるように展示した。

続けて、行田市瓦塚古墳と東松山市伝岩鼻古墳群から出土した高床で壁の構造も持たない家形埴輪もこのコーナーで展示した。最後に展示した本庄市公卿塚古墳出土の圀形埴輪は、豪族居館や祭祀空間を囲う塀として次のコーナーで展示する渋川市金井下新田遺跡出土「網代垣」につながるものとして展示した。

<展示資料>

- ・鴻巣市生出塚埴輪窯跡出土家形埴輪 2点 重要文化財
- ・鴻巣市新屋敷遺跡60号墳出土家形埴輪



写真3 行燈ケース

- ・山崎山出土家形埴輪 2点
- ・朝霞市柵塚古墳出土家形埴輪
- ・滑川町月輪古墳群 12号墳出土家形埴輪 滑川町指定有形文化財
- ・嵐山町古里古墳群駒込支群 1号墳出土
- ・行田市瓦塚古墳出土家形埴輪 2点
- ・東松山市伝岩鼻古墳群出土家形埴輪
- ・本庄市公卿塚古墳出土圀形埴輪

II 豪族の館

続いて豪族居館の例として、群馬県高崎市三ツ寺 I 遺跡と栃木県宇都宮市権現山遺跡の出土品資料を展示して、居館内での豪族の生活や祭祀、生業を行う工房が存在したことを解説し、家形埴輪が居館内の建物を映したものとして存在する考えがあることを紹介した。

<展示資料>

1 三ツ寺遺跡

- ・滑石製模造品
- ・埴輪
- ・羽口
- ・須恵器 甗
- ・土師器 高坏
- ・須恵器 高坏
- ・土師器 坏
- ・種子（クルミ・モモ）



写真4 三ツ寺 I 遺跡・権現山遺跡

2 権現山遺跡

- ・48号住居跡出土 土師器 甗・甑・埴・埴
- ・48号住居跡出土 須恵器 甗
- ・95号溝出土 須恵器 筒型器台
- ・33号住居跡出土 羽口・鉄滓・金床石

3 金井下新田遺跡

- ・金井下新田遺跡出土 網代剥ぎ取り

III 古墳時代の集落

豪族居館や祭祀を行う空間では、それを囲う塀や柵列遺構が検出される。群馬県渋川市金井新田遺跡出土の「網代垣」はその好例で、群馬県及び調査組織の特別の計らいで剥ぎ取り資料の展示を行うことができた。この資料は、約2m四方を遺跡で剥ぎ取りしたものをパネル状に加工したもので、発掘調査以降に展示されるのは今回が初めてとなった。今回の展示構成の中では、家形埴輪の性格から考える展開の中でまとめとなる展示資料となった。



写真5 網代垣（金井下新田遺跡）

最後のコーナーでは、建造物の構造を知ることができる建築部材を展示して、家形埴輪から見えてくる建造物をより具体的な資料で示すことができた。

<展示資料>

4 築道下遺跡

・築道下遺跡出土 土師器 坏・埴・甑・甕

5 建築部材

- ・小敷田遺跡 河川跡出土 建築部材
- ・北島遺跡 423号溝出土 建築部材 3点
- ・城敷遺跡出土 建築部材 建築部材（扉）
- ・城北遺跡 河川跡出土 建築部材（楣）

エピローグ

最後のコーナーでは、家形埴輪が出土する周辺の古墳や、埴輪の復元を行っている古墳を写真パネルで紹介した。



写真6 建築部材

3 広報・刊行物・印刷物

県政記者クラブ・熊谷記者クラブ等への報道発表資料の提供を行うとともに、埼玉県ホームページ「県政ニュース」に掲載し当館ホームページとツイッターにより開催の告知や展示内容の紹介を行った。朝日新聞、毎日新聞、読売新聞（県南）、埼玉新聞において記事が掲載された。開催期間中は、週1回のペースで展示の見どころをツイッターで発信に努めた。

刊行物として、A4判、4色刷の展示図録を1,000冊刊行した。印刷物は、ポスターB2判、4色、500枚、チラシA4判、表4色、裏2色、20,000枚、を作成し、県内市町村教育委員会、埼玉博連加盟館、関博協、近県の埋蔵文化財関連施設、他県主要博物館等に配布した。また、展示資料一覧を館内で印刷し、展示室内で配布した。



写真7 チラシ（表）・（裏）

4 企画展関連データ

- 1 名称：令和4年度企画展「家形埴輪」
- 2 会場：さきたま史跡の博物館 企画展示室
- 3 開催期間：令和4年10月8日（土）～11月27日（日）
- 4 会期日数：47日
- 5 入場者数：9,928人
- 6 資料点数：50点
- 7 関連事業
 - (1) さきたま講座：11月13日（日）13時30分から15時30分
演題：「生出塚埴輪窯跡出土の家形埴輪から」
講師：山崎 武（元 鴻巣市教育委員会 生涯学習課副参事）
 - (2) 企画展ガイドツアー：実施回数：3回



写真8 展示図録



写真9 入口外看板